2016年度 北海道自治体学土曜講座 第4回目

第1回 2016年9月3日(土)13:00～17:30

会場 北海学園大学 3号館22番教室

テーマ 自治体がつくるワーキングプア～その実態、背景と克服策を考える～

主旨 貧困をなくす役割が自治体に期待されているその一方で、自治体そのものが貧困をうみだしている。官製ワーキングプア問題である。

自治体に雇われて働く臨時・非常勤職員は、短時間・短期間勤務者を除く総務省の調査でも全国で約60万人にのぼる。彼らの多くは女性で、年収は200万円に満たない。民間労働者ではないからと労働条件決定における労使対等原則は採用されず、一方で、地方公務員法では彼らが長期で基幹的な業務に従事することを前提としていない。法の狭間に落ちた存在である。

他方で、自治体は多くの業務を民間事業者に委ねている。財政難や入札制度における競争政策がそこに拍車をかけている。結果、公共事業・委託事業・指定管理者分野などで貧困が生み出されている。しかし、発注者側である当の自治体は、発注後のことには関心は薄い。2013年秋に札幌市議会で否決された公契約条例はそこに歯止めをかけようとするものであった。だが、札幌市で否決された後、道内自治体で、公契約条例の制定を目指す動きは聞かない。

本講ではこうした問題状況を確認すると同時に、その是正に向けた各地の取り組みに学びたい。

第1講 基調講演と事例報告(13:00～15:00)

「官製ワーキングプア総論」(仮題)

13:00～14:00

川村 雅則(北海学園大学経済学部教授)

「自治体の臨時・非常勤問題」(仮題)

14:00～14:40

増田 光子(市立札幌病院職員労働組合非常勤職員部会長・自治労北海道臨時・非常勤等職員連絡会議 議長)

「官製ワーキングプアをなくす議員の取り組み」(仮題)

14:40～15:20

稲葉 典昭(帯広市議会議員)

第2講 パネルディスカッション(15:30～17:30)

【パネリスト】◆松本敦子(自治労道本部臨時執行委員) ◆稲葉典昭 ◆鈴木 一(札幌地域労組副委員長)

【司 会】◆川村 雅則

※フロア発言を含む。